

## 平成 30 年度第 3 回八尾市自殺対策計画審議会 議事概要

1. 日時：平成 30 年 12 月 13 日（木） 午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
2. 場所：八尾商工会議所 3 階 大ホール
3. 出席委員  
16 名中 15 名出席

### 4. 内容

#### (1) 会長挨拶

この審議会も 3 回目になりまして、今日は素案も出たということになりました。事務局には、今回いろいろとご尽力ありがとうございました。この会議の中で委員の皆様方に何回も議論いただいて素案ができたところがございますが、今日もまた同じようなかたちでご意見をいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

#### (2) 議事：報告事項

##### 1) 第 2 回八尾市自殺対策計画審議会議事概要について

###### ◇事務局

資料に沿って、事務局から説明

###### ◆住民代表者

今後の策定スケジュールについて、12 月 22 日の講演会の周知方法はどのようにされたのか。また、2 月 1 日の研修会について、時間帯、会場などはどのようになっているのか。

###### ◆会長

今の件は、事務局の最後の説明にて回答してもらうこととする。

#### (3) 議事：検討事項

##### 1) 自殺対策計画素案について

###### ◇事務局

資料に沿って、事務局から説明

###### ◆会長

概要版を含め全体を検討していただきたい。

###### ◆医療関係者

市町村単位の計画において、私が一番気にするのは八尾市らしさがどこに出ているかである。八尾市の特性の内容をしっかりと盛り込んでいただきたい。特に「地域での支えあいを大切に、地域活動や市民活動が活発なまち」についてはその通りであり、地域の連携、人とのつながりを一生懸命にしている方は意外と多い。そのつながりについても、この自殺対策にどう活用されるかしっかりと書いていただきたい。

また、計画の目標について、数値目標が掲げられているが、例えばゲートキーパー養成講座は市の組織内で懸命にやっており 100%となっている。これは非常に重要なことであり、それ以外のゲートキーパーの扱いについても重要なところである。この点について、具体的な施策あるいは数値目標はないのか。例えば、八尾市内、社員が 100 人以上の企業の中で、ゲートキーパー養成講座を受けてもらう企業をどれくらいつくるか、学校の中にゲートキーパーをどれくらいつくる等の目標も立てて欲しい。

地域普及、市民啓発について、大切な部分であるが、22 日の講演会について、定員 100 人は少なすぎると思う。この会場は 200 人入り、八尾市にはプリズムホールという大きな会場もあるため、もっと大規模な啓発をしていただきたい。またこの市民啓発についても、啓発を受けた八尾市民をどれくらいつくるか、つくるつもりがあるかも盛り込んでほしい。

#### ◆会長

41 ページの計画目標のところ、以前、各委員が所属する組織や団体の中でゲートキーパー研修の受講は可能かという話があり、委員より可能であるという話もあった。その内容をどう盛り込むか検討したい。

#### ◆医療関係者

実際に相談に関わる現場の人たちについて、特に深刻なケースほど関わる人のスーパーバイザーあるいはメンタルヘルスケア等が重要な問題だと思う。今はまだその段階ではないが、そういった人たちのケアについては、いつも頭に入れてほしい。

#### ◆医療関係者

計画目標の「市内の自殺死亡率の減少傾向を維持する」について、目標を「維持する」でよいのか。自殺者ゼロを目標にしたほうがよいと思う。また、目標の「市職員、関係機関・団体や市民向けのゲートキーパー養成講座の開催」について、具体的に関係機関や団体はどこなのか。数値目標が100%であれば、具体的な内容があってもよいのではないか。また、「ツールキットの開発」について、今持っているといった具体的なツールはあるのか。

#### ◇事務局

ツールキットについて、現在考えているものはある。後ほど説明させていただきたい。

#### ◆医療関係者

ゲートキーパーについて、市職員だけではなく団体でさらに実施できるような対策はとれていないのではないかと。

#### ◆その他市長が適当と認める者

この資料をどう運用していけるかが重要である。計画だけ作成して持っているだけではいけない。関係団体や企業、市民にこれだけの資料を読み込んでもらうのは非常に難しい。啓発からのスタートであるため、様々な機会を利用していく必要がある。また、相談窓口一覧について、一覧があっても特定の窓口を探すのは大変であるため、病院という総合窓口のような所で振り分けができればよいと思う。

#### ◆市民公募委員

12/22の講演会について、定員が100名というのはもったいない。また時間帯について、出席できない人にも配慮し、ネット配信等を積極的に検討してほしい。

「八尾らしさ」について、22 ページ 6 行目に「八尾市自殺対策計画を策定し、市民の誰もが自殺に追い込まれることのない」とあるが、ここは「自殺」ではなく「自殺状況」だと思う。「自殺状況に追い込まれることのない社会の実現を目指し、八尾における社会資源を積極的に活用し、市民の誰もが生きる」という形にしていきたい。56 ページ 下から 3 行目に「市民の誰もが」とあるため、統一性を持ったほうがいい。

自殺対策について、二次被害の防止がとても大事だと思う。支えている人も被害にあり、精神疾患になることもある。自死の方もそうだが、二次被害も防止するということを強く主張していきたい。

39 ページの「支援件数」について、この相談をどこで知ったか把握していたら教えていただきたい。ここに至るまでに何で知ったのか、そのアクセスが分からないとそもそも相談機関に通じないと思う。53 ページの「自殺未遂者」について、「自殺未遂者が再び自殺を企図する可能性は、自殺未遂者以外の者に比べて」とあるが、「者」ではなく「自殺未遂者以外の層に比べて」等、柔らかい表現の方が自殺未遂者の方が見たときに少し和むのではないかと。同じく 53 ページにおいても「ハイリスク者」ではなく「ハイリスク層」として全体を捉えていただければと思う。54 ページの「そのため、本市では、間違った社会通念」から始まるころには、「市民に自殺や自殺予防、うつ病等の精神疾患」と「これらの状況からくる二次被害の防止」といった内容を入れていただきたい。42 ページ以降の各相談機関について、弁護士や年金関連の社労士へのアクセスはどうなっているのかと感じた。自殺になった場合、法律的介入が必要であるため、一覧には法テラ

スを加えるべきだと思う。

ゲートキーパー養成に関して、高校生や大学生といった若い層への普及ができないのかご検討いただければと思う。付随情報だが、大阪市の福島区の仏教会などは宗教的な観点から自死遺族へのケアをされている。行政が宗教的なものは出せないと思うが、このような宗教界や、特に東京の仏教会は大々的に自死予防をされていると聞く。

#### ◆市民公募委員

市民の立場としてお話をしたいと思う。この11月にゲートキーパー養成講座が子育て支援の団体のスタッフ向けにあったが、私が数年前に受けた講座と、今回実施されたものでは少し内容が違った。計画の中で講座の受講者数の増加、アンケートに「理解できた」と回答した割合が70%という数字が出ているが、講座内容は受講者の気分に配慮し少し内容を和らげており、実際に講座を受けたスタッフの感想が今一つわからなかったという結果になってしまった。もう少し深く聞きたかったという声もあった。教職員の人達と、一般市民が受ける養成講座では、やはり段階があると思う。受け手側に自殺願望がある人と出会ったときに本当に気付けるかどうか。子育て支援の団体では、乳幼児を抱えたお母さん達がたくさん見え、その中で産後うつを患っている方のためにも、スタッフ向けの養成講座が必要であると思う。団体、企業、市民、どのような関わりができるのかなど、講座の中にも様々な要素があってもよいと思う。

#### ◆関係行政機関の職員

自殺の用語の使い方、「遺族支援の分野では「自死」という用語を使います」といったコメントがあるが、途中「自殺（自死）」という書き方になっている。以後そのような書きぶりで行かれるのか。

#### ◆関係行政機関の職員

58 ページの一番下の○で「自殺死亡率」を「自殺率」と表記している。

全体的な話で、順番に委員の皆様がご発言されているのを聞き、八尾市は市民の方と一緒にやっていく感じがした。八尾市らしさをということであれば、施策の体系でもっと市民と一緒に取り組むような文言が入ってもよいと思う。

#### ◆関係行政機関の職員

労働者の方も該当すると思うが、計画を読まれる方の年齢層の幅も広いということもあり、どうしても文字中心になってくると思う。漫画といったものも入れながら、皆さんが見られるようなものがあればよいと思う。

#### ◆その他市長が適当と認める者

仕事をする上では、目標を決めて次に評価するので、目標が具体的にあってよいと思う。計画の目標が数字ではないのが気になった。

また、過去に養成講座を受講したことがあり、その時の資料をもう一度振り返ったが、忘れていたことが多々あった。やはりゲートキーパー養成講座を1回受けただけではなく、継続してゲートキーパーのフォローアップ研修なども入れていただければと思う。

#### ◆住民代表者

気になるところは、53 ページの一番下の「自死遺族」というところ。先月、知人から自死遺族の方の相談を受けた。自死遺族の方から、自殺の原因はわからないが、会社には亡くなりましたということだけの報告をした、近所の方にも詳しいことを言っていない、できればこれから他の家族が辛い思いをした時に支援をしてほしいと知人からお願いされた。

自死遺族の欄の最後に「支援を充実することが必要です」と書かれているが、あまりその自死遺族のところを訪問するとどのように受け止められるのだろうと思い、足が遠く。訪問をする時に「どうでしょうか」という形でさりげなく支援はさせていただく。項目の下に余白があるので、どのようなことが必要か書いていただけたらと思う。

#### ◆住民代表者

色々な事業や行政の施策を進めるにあたり、やはり市民と人と拠点が大事だと思う。「自治体への助成制度として、地域自殺対策緊急強化基金が創設されました」と書いてあるが、今でも続いているのか。八尾市としていくもらっているのかお聞きしたい。

また、啓発では、一般市民に対する啓発が一番大切なことだと思う。方法が載っているがこれだけでは不足。啓発の徹底やチラシの配布、一般市民とのつながりのキーマンは町会長だと思うが、町会長は1年、2年の交代が多い。ゲートキーパー講座に町会長の代表を必ず入れてもらいたいと思う。

12月22日のチラシの徹底方法について、自治振興委員会のほうに回ってきたのか。また、2月1日に行われる研修会も一般市民、町会に徹底しようと思うと、12月の自治振興委員会でチラシを配布しなければ。時期を見て、スケジュールを決め、早めにやっていくことが大事であると思う。

#### ◆住民代表者

施策を所管別、相談窓口を対象別に書いているが、どこかの窓口に相談された方が背後に非常に複合的な問題を抱えていると思うので、相談窓口や施策を担当する所管課が横の連携をしっかりと取らなければ、自殺を事前に予防することは難しい。自殺対策審議会等のネットワークの記載があるが、事務レベルでの横串の差し方を計画の中でしっかりと位置づけていただきたいと思います。

#### ◆会長

この会議では、委員の方々が一人として発言なしとされず、皆さん必ず発言されており、素晴らしいことだと思う。まず、事務局に質問等ありましたので、その辺りについてお答えいただけるか。もし、自分の質問について答えられていないと思われたら、また委員からご発言をお願いしたいと思う。

#### ◇事務局

自殺者数の目標値について、「減少傾向維持」と書いている部分について、行政も、追い込まれての自殺はゼロが望ましいと考えている。国の大綱の3割減も承知しているが、大阪府の自殺対策基本指針を参考に減少傾向の維持と記載した。

関係団体等について、具体的な記載はないが、医療、福祉、教育、労働といったところを想定している。

「こころといのちの相談」の支援につながったきっかけについて、相談対応時に何で知ったか経路を聞いていないので把握していない。

「自死」や「自殺」の表記について、もう一度中身を確認する。自死遺族のところにについては、遺族等に配慮し、「自死」ということで統一する。また、市民アンケートの際に「自殺(自死)」という形で尋ねている。市民に分かりやすくというのを意図しているので、質問に対する部分、市民に送らせていただいた部分はそのまま掲載している。

国の自殺対策緊急強化基金について、基金は既に終了している。交付金があるが、平成30年度の交付金は約400万円で、相談や計画策定に活用している。

22日の講演会の周知について、現在、庁内関係課を中心にチラシの配布や、アリオ八尾内でポスター掲示をしている。また、駅でのポスター掲示も行う予定。加えて、市政だより、FMちゃおというラジオ放送でのアナウンスや、八尾市のホームページ、ツイッター、フェイスブック等で周知している。また、自治振興委員会への協力依頼について、依頼時点で当初講演会の開催が決まっていなかったため、依頼ができなかった。随時の話もあったが、今年は台風等で掲示板が壊れているところが多くあると聞いており、依頼が困難であると考えていた。

#### ◆住民代表者

自治振興委員会について、12月10日に幹事会を行った。この時に来てもらい、このような話があると言ってもらえればよかったと思う。

◆市民公募委員

先程、講演会の動画配信のことを伺ったが、周知方法について、どのような形で行うのか。

◇事務局

動画配信について、ネットの動画配信の部分について取り組んだという経験がなく、どのような形の手法があるのかも含め、もう少し研究をしていかなければいけない。今後、マスメディアやネットを使った媒体の活用の仕方は行政の課題と思う。

自治振興委員会について、12月の案件で仮に挙げた場合、講演会まで期間が短いということ、回覧が回るまである程度時間がかかるということもあり、12月も控えさせていただいた。

◆住民代表者

12月10日の幹事会で、幹事だけでもよいので説明していただければよかったと思う。

◇事務局

そのような機会を使い、幹事の皆様に啓発させていただきたいと思う。

◆会長

会長として、事務局と連絡を取りながら対応してきたということを少し述べさせていただきます。

1つ目が、計画は5年間であるが、どこに重点を置くかということで、基盤づくりであるところを事務局と話し合ってきた。基盤づくりにおいては、八尾市らしさをしっかり出して、事務局とゲートキーパーの研修や育成に重点を置ければよかったが、この八尾市らしさということ、かつ広く知識として共有していきたいということをベースにしながら、八尾市らしさをしっかりと入れていくというところでツールキットを開発するという話が出てきたと思う。

審議会の委員の皆様としては、それぞれの団体等の中でゲートキーパーの研修といった場面があれば、それぞれの団体から受講の機会をつくっていくということは共有されているということによろしいか。それぞれの団体が意識を合わせるという機会は滅多に無いことだと思う。そういった点を踏まえ計画の中に入れていく。行政が先行しながらしっかりと両方やっていくということで、その結果として、連携、横のつながりといった部分を実現していくことが重要だと思う。

ゼロ目標について、自殺ゼロが望ましいのではないかという話だが、微妙なところがある。

一つはご遺族の方から見ると、ゼロ目標ということにすると、自分の家族はゼロにならなければいけないといって亡くなったのかという話が出てくる。加えて、現実的に自殺というのは多様な死を自殺と呼んでいるものでもあるので、ゼロ目標というのは簡単に達成できるものではない。自殺は倫理的な問題でも法律違反でもない一つの死であるということから考えて、予防できる自殺をできるだけ少なくするという観点で計画させていただくということによろしいか。

◆医療関係者

ゼロにするということは現実的に100%無理だとは思っている。ただ、減少傾向を維持するという言葉に引っかかった。減少させていくというのがよいと思う。

◆会長

ここについては、しっかりと文言について考えていきたいと思う。もう1点、二次被害という言葉があった。二次被害というと、ご遺族が亡くなったことに対してどなたかとコミュニケーションをとった時に、誤解を受けて辛い思いをされることがある。さらに他のところで出会ったときに、またその辛い気持ちが繰り返されるというのを二次被害という場合がある。二次被害という言葉と、支援者のケアという言葉、2つを独立させて、それぞれ整理をして計画の中で使っていくということを確認させていただく。そ

こはよろしいか。

#### ◆医療関係者

ゲートキーパーが主となると繰り返しているが、あくまでもゲートキーパーというのは一般市民、関係団体で素人である。心理カウンセラー、臨床心理士など、資格を持っていたらもちろんプロであるが、その言葉が一つも入っていない。そういった連携や計画はないのか。

#### ◇事務局

臨床心理士の部分については、保健所の職員の中に臨床心理士という職種はおりません。ただ、全庁的なところで、例えば八尾市の市役所の中に臨床心理士は配置している部署もある。そういった分野、セクションとの連携で協働し仕事をしていくという理念で考えております。

#### ◆会長

ゲートキーパーだけが全てに対応するわけではない。連携やネットワークという言葉だけでは、それに中心になって調整する責任が明確にならないところがある。その方が重い問題を抱えていた場合、誰がどう対応していくのかという部分については、その専門職や行政の中に配置されている専門職につなげることを少し検討していかなければいけないと思う。そのところを計画の中で先が見えるようにしていく必要があると思う。どちらにしても、計画そのものは5年間だが、5年、さらにその次の計画という形で発展させていくことが大切である。第1期の計画ではしっかりと基礎をつくり、何が課題かが見え、その次に深まるものが進んでいくという形がよいと思う。

#### ◆医療関係者

自殺死亡率について、私の提案として今の減少率を維持するというのがあったら、次の5年で何%まで減らすか、というのはできると思う。八尾市はこの傾向を維持して次の5年間にはこれだけ減らすということを目標にしてもよいと思う。

また、自殺の防止には、市民全体に対する支援、リスクのある方の支援、実際に切迫している方への支援があるとされたが、相談窓口一覧を見ても切迫した方の窓口は一番上の「こころといのちの相談」だけである。平日は17時まで、祝日、年末年始は除くということで、もう一步踏み込んで計画として入れられないか。

#### ◇事務局

24時間しっかりと行政がやると謳うことができるのが一番よいと思う。現時点で、職員が日中の時間帯、委託をしている部分については、金曜日17時以降、土曜日の朝の時間帯までこころの相談窓口の電話対応をしている。啓発の仕方の工夫があると思うが、一自治体単位ではなく、例えば都道府県や全国単位で24時間のダイヤルなどの相談ツールや、対象者を限定した形の情報もあるので、そういったものをいかにして市民の皆様に分かりやすい形で情報を発信していくかというところが、一自治体が啓発を考えていく中でできるところかと思う。多様な相談窓口も活用しながら、しっかり情報提供させていただきたいと考えている。

相談窓口の一覧について、ご本人に見ていただくことも大事なことであるが、周囲にいる方々にもこういった窓口があるのだと伝える、気づいていただくところも意図している。ご本人がご相談するのが難しいケースもあると思うので、周囲の方々の気づきを促せるような形での意図で相談窓口の一覧を掲載させていただいている。

#### ◆会長

計画の中で評価委員会を設置すると言われているので、これらを通じて、事業がどれだけうまくいっているのか、ある程度客観的に見ていただければと思う。

## 2) 計画のネーミングについて

### ◇事務局

資料に沿って説明

◆医療関係者

計画は、自殺を防ぐということが明確になったほうがよいと思う。「こころの健康づくり」と言うと、もう少し広い意味になる。「誰も自殺しない」というところ、私はずっと八尾市に住んでいるので河内弁が入ったほうがよいと思う。

◆医療関係者

長いネーミングよりも短いほうがよいと思う。サブタイトル「誰も自殺に追い込まれることのない八尾市をめざして」というのは、絶対ゼロ、誰もいないというようになると、凄い罪悪を感じると受け取られてしまうし、目標にするとギスギスした感じとなり、対策する方もしんどくなってしまうので止めたほうがよいと思う。

◆医療関係者

計画名として、自殺という文言が入っていてもよいと思うが、サブタイトルは柔らかくしたほうがよいと思う。「生きる」など、希望があるほうがよいと思う。自殺をしないということは生きるということなので、生きるという言葉、いのちということに関しての文言が入っていたほうがよいと思う。

◆医療関係者

計画については、自殺とはっきり入っていてもよいと思う。サブタイトルについては、私は「気づき・つながり」という言葉がとてもよいと感じた。皆さんでということで、「気づき・つながり」という言葉がよいと思う。

◆その他市長が適当と認める者

計画としては、これは何のための計画かがはっきりと出たほうがよいと思う。

◆市民公募委員

私が感じたのは、なかなか介入できない、目標に追い込まれてしまうと意味がないので、八尾らしさということで「どうしたの？からはじまる いのち支えるまち やお」はどうか。「ほっとかれへん」ではなく、「どうしたの」という気づきで柔らかく、かつ河内弁を入れさせていただいたというところで考えている。

◆市民公募委員

計画の名称は「八尾市自殺対策計画」がよいと思う。サブタイトルは、八尾の人が聞いたら「ほっとかれへん」というのが好きなかなと思う。ただ、これは誰に向けて言うのだろうと思う。誰がこれを聞き取るのかということだと思う。その辺が少しわからないと思いつながら、どの言葉がよいのだろうと思った。教育や支援のあたりでも出てくるような言葉だったりもする。

◆関係行政機関の職員

大阪府の条例案でも長いものがある。酒に酔って迷惑をかける部分は酩酊と短くしている。計画案も短くわかりやすく。サブタイトルは噛み砕いてわかるようにしていただければよいと思う。

◆関係行政機関の職員

計画の名称について、「こころの健康づくりやお計画」にすると、ネーミングと中身が全然違うと思うので、やはり「八尾市自殺対策計画」がよいと思う。サブタイトルは、計画の考え方とところで「生きることへの支援」ということを打ち出していることを考えると「“生きる”を支えるまち やお」にしたほうがよいと思う。生きることをみんな支えていく計画ということがわかりやすいと思う。

◆関係行政機関の職員

私どもの計画は、労働災害防止という形で労働災害防止推進計画といった計画になっている。自殺対策に予防を入れるのはあると思う。サブタイトルは、いのちを支えると

いった表現があるとよいと思う。

◆その他市長が適当と認める者

計画は何の計画かがわかるように「自殺対策計画」とし、サブタイトルは柔らかい感じで「いのちを支える」といったものがよいと思う。

◆住民代表者

計画は「八尾市自殺対策計画」で、サブタイトルはやはり短くてわかりやすいものがよいと思うので、「“生きる”を支えるまち やお」がよいと思う。

◆住民代表者

計画は「八尾市自殺対策計画」でよいと思う。サブタイトルは、いのちや生命というようなものは最高の宝物だと思う。「いのちを支えるまち やお」の前に宝をつけて「宝のいのちを支えるまち やお」にしていればよいと思う。

◆住民代表者

計画の名称は「自殺対策計画」でよいと思う。サブタイトルはあまり長くないのがよいと思う。

◆会長

計画の名称については「八尾市自殺対策計画」というように自殺対策ということが明確に出たほうがよいということで満場一致。

また、サブタイトルはわかりやすいということ、半数くらいの方からやはり地元の言葉を少し尊重したらどうかというご意見があった。地元の言葉がちゃんと出て、かつ計画の中にも地元の支援というものを尊重して出したという計画ができると素晴らしいと思う。私としては、事務局のほうに「ほっとかれへん」がよいのかわからないが、こちらの言葉を使ったサブタイトルについてももう少し検討していただければと思う。

◆関係行政機関の職員

自殺対策計画という表現はすごく固い。みんなで進めていきますよということで「推進」を入れてはどうか。

◆会長

サブタイトルは大事。自殺対策推進計画と書いて、その下にそのサブタイトルがあると標語のように使える。事務局に知恵を絞っていただきたいと思う。

◇事務局

「ほっとかれへん」という言葉なのですが、八尾市の総合計画の中に出てきている言葉を引用した。「おかげさま」「おたがいさま」の気持ちが強く、人と人とのつながりの良さ、飾らずに気軽にもものが言えることや面倒見の良さ（“ほっとかれへん”という意識）などは、河内の人々の気質のあらわれといえ、八尾の魅力となっています」というところから引用させていただいた。

◆会長

総合計画とのつながりを明確にするという意味では一つの方法。素案とサブタイトルについての意見については、週明けくらいまででよろしいか。

3) 自殺に関する相談対応について

◇事務局

資料に沿って説明

◆会長

ゲートキーパーの研修や人材育成というところとつないで、実際に支援のためのツール

としてこのカードを使っていくという話です。こういったものは一度に開発できるものではなく、色々な施行を通じて少しずつ改良することが大事だと思う。

#### 4) 今後の策定スケジュールについて

##### ◇事務局

事務局にて各位委員より頂戴した意見を会長との相談の上、自殺対策推進計画をまとめていく予定であることを説明。また、平成30年12月22日に市民向け自殺予防講演会を、12月25日から平成31年1月24日までの間、パブリックコメントを実施した後、平成31年2月15日(金)の第4回の審議会では、自殺対策推進計画(案)の最終確認を行う旨説明。その他、平成31年1月、2月には自殺に関連するアルコール健康障害の予防講座、平成31年2月1日には都村先生を招き自殺予防のための電話相談を含めた相談対応力向上のための研修を開催することを説明。